

令和 8 年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

「英語の勉強は好きですか」の質問項目に対し肯定的に回答する児童の割合 (R6: 70.5% ⇒ R8: 72%以上) 【全国学力・学習状況調査】

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

①授業における、児童の英語による言語活動時間の割合の増加
・50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合

(R4:93.5%→ R5:95.1%)

・75%以上の時間言語活動を行っている学校の割合

(R4:59.3%→ R5:66.7%)

②言語活動を通じた指導の充実
・「英語でやり取りや発表をする時には、自分の考えや気持ちなどを伝えています」の質問項目に肯定的に回答した児童の割合

(R6:71.4%→ R7:72.5%)

③児童の学習意欲の向上

・「英語の勉強は好きですか」の質問項目に肯定的に回答した児童の割合

(R3:68.8%→ R5:70.7%→ R6:70.5%)

①児童の実態を踏まえた指導と評価の充実

・児童の学習状況等を把握・評価し、それらを踏まえた具体的な指導改善が十分行われていない。

2. 要因分析

①②研修等を通じ、「言語活動を中心に据えた授業」を展開することが浸透し、授業において、児童が英語による言語活動を行う十分な時間を確保している教員が増加してきている。また、授業での英語による言語活動の機会が充実したことで、児童が英語で自分の気持ちや考えを伝えることができるようになってきていると考えられる。

③研修等を通じ、児童が「英語を使ってコミュニケーションをしてみたい」と思える単元ゴールの設定を意識した授業づくりが行われるようになってきていることで、児童が実際のコミュニケーションに向けて主体的に学び、児童の英語学習に対する意欲の向上につながっていると考えられる。

①児童の学習状況等の見取りや評価の在り方についての理解が十分でなく、それらを踏まえた具体的な指導改善を行うことに難しさを感じている教員が多くいると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①小学校外国語教育推進研修

《趣旨》

小学校外国語教育の円滑な実施と充実を図るため、各地域の中核となる教員を小学校英語専科教員として加配措置し、小学校外国語教育の課題に対応した授業改善に向けた実践的な研修を実施し、児童の英語力の向上を図る。

《内容》

- ・小学校英語専科教員を対象とした研修を年3回開催し、指導力及び専門性の向上を図る。
- ・研修のうち1回は、小学校英語専科教員の代表者による研究授業・研究協議等を行い、実際の授業を通じた指導力向上を図る。
- ・外部専門機関等から有識者を講師として招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。
- ・小学校英語専科教員による好事例を基に、小学校外国語教育に関する指導資料を作成し、県内に普及する。

①②③①小学校外国語活動・外国語 お助けデータバンク

《趣旨》

小学校外国語活動及び外国語科において、今求められる授業づくりに関する理解を深め、各校における授業改善及び学年間・校種間連携を充実させるため、県内全ての教員が活用することができるコンテンツを作成し、児童の英語力及び学習意欲向上に向けた授業改善及び校種間の接続を意識した授業づくりを推進する。

①②③①小学校英語担当教員を対象とした研修会

《趣旨》

小学校外国語活動及び外国語科において、今求められる基礎的な授業づくりに関する理解を深め、各校における授業改善に資する。

《内容》

- ・小学校外国語科の基本的な授業づくりについて、オンラインによる短時間の理論研修を行う。

■新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を、R9年度に50%にすることを目標に、段階的に確保していく。

令和 8 年度 広島県 英語教育改善プラン

目標

児童生徒が、初対面の外国人等に対して、英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が授業内外で実現され、児童生徒の英語力や英語学習に対する意欲が高まっている。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：47.5％⇒R8：55.0％）

○授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が半分以上と回答する学校の割合：（R7：77.2％⇒R8：80.0％）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加し、全国平均値との差が縮小。

（R6:41.4％⇒R7:47.5％ 前年度比+6.1）

（R6:-11.0⇒R7:-7.1）

②授業中、50％以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加。

（R6:74.0％⇒R7:77.2％ 前年度比+3.2）

③「英語の勉強は好きです」の質問項目に肯定的に回答した生徒の割合が増加。

（R6:57.6％⇒R7:59.9％ 前年度比+2.3）

① 5 領域及び複数の領域を統合した言語活動の実施についての捉え方に、英語担当教師と生徒間で乖離が拡大している。

2. 要因分析

①英語担当教師の学習指導要領についての理解が深まるとともに、それを踏まえ、生徒の英語力を向上させるための指導が実施されている。

②言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するという考えが浸透し、英語担当教師が、言語活動を中心に据えた授業づくりを行っている。

③英語担当教師が言語活動を中心に据えた授業づくりを充実させることで、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加し、生徒の学習意欲が向上していると考えられる。

① 英語担当教師が育成する資質・能力を明確にし、その目標に基づいた言語活動を十分に設定することができていないと考えられる。また、生徒と言語活動の目的等を十分に共有できていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②① 中学校外国語エンパワーメント研修

・各学校の中核となることを期待される中学校英語担当教員を対象に、言語活動を中心とした授業づくりに向けた研修及び伴走型支援を行うことにより、教員の指導力及び専門性の向上を図るとともに生徒の英語力向上を図る。

①②① 生徒の英語力向上に向けた教職員研修会

・本県中学生の英語力に関する習熟状況を把握・分析を行うとともに、英語担当教師の指導の充実及び生徒の学習状況の改善等、外国語教育の改善及び充実に向けた取組の推進を図る。

①②③① A I を活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業

・A I 活用に関する実践や知見の蓄積を行い、教師やA L T 等による指導とA I 活用との効果的な組合せについて実証研究し、生徒の英語力及び学習意欲の向上を図るとともに、その成果を普及する（A I 英語モデル校 5 校）。

①②① 英語アセスメントテストの実施

・県内公立中学校の全生徒を対象に英語アセスメントテスト（英検 I B A）を実施し、生徒の英語力を把握し、指導の成果と課題を踏まえた指導改善を推進することにより、生徒の英語力向上を目指す。

③「英語で教室から世界とつながる」国際交流プラットフォーム

・生徒が外国人等と英語を使って主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、県教育委員会が海外の教育機関等と連携してプラットフォームを構築し、交流等の実施を支援する（参加校26校）。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/newworld-pj/>

未だ改善が必要な点

令和 8 年度 広島県 英語教育改善プラン

授業における英語による言語活動を充実させ、生徒の五つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」）に係る資質・能力を総合的に向上させる。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 46.4%、B1以上 18.7% ⇒ R8 : A2以上 58%、B1以上 27%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①パフォーマンステストを実施した上で、その結果を授業改善に生かしている学校の割合（県の調査より）
(R6:91.8%⇒R7:96.1%)

②デジタル機器を活用した授業を実施している学校の割合（県の調査より）
(R6:97.0%⇒R7:99.1%)

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6:47.0%⇒R7:46.4%)
※全国R7:52.4%

②授業における発話の半分以上を英語で行っている学校の割合
(R6:29.2%⇒R7:19.4%)
※全国R7:37.5%

2. 要因分析

①「話すこと [やり取り]」に係るパフォーマンステストの実施について「パフォーマンステスト実施報告書」等を基に、各学校において単元づくり及び学習評価について振り返ることにより、授業改善が進んだと考えられる。

②各教科等の授業でのデジタル機器の効果的な活用について、共有フォルダにアップロードされた他校の実践の好事例を参考にすることによりデジタル機器の活用が進んだと考えられる。

①授業改善に係る取組の充実は図れている一方で、CAN-DO形式による学習到達目標と単元で設定するパフォーマンステストの関連性を明確にした計画に基づく指導が十分に行われていないことが考えられる。

②授業においてデジタル機器を十分に活用している一方で、生成 A I を含むデジタルツールの活用を年間指導計画や単元指導計画に効果的に位置付けた指導や、ペアやグループでのオーセンティックな言語活動と効果的に組み合わせた指導が十分に行われていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動の充実を図る校内研修の充実及び好事例の共有化の促進
・各学校において、「話すこと [やり取り]」に係るパフォーマンステストの実施について「パフォーマンステスト実施報告書」により報告し、テストの内容だけでなく、指導及び評価等についても客観的に振り返る。
・各学校において、共有フォルダにアップロードされた他校の「パフォーマンステスト実施報告書」の好事例を参考にして、指導改善につなげる。

①「CAN-DO形式」による学習到達目標の活用の促進
各学校において、学習指導案及び「パフォーマンステスト実施報告書」等に単元目標と「CAN-DO形式」による学習到達目標との関わりを明記することにより、つながりを意識した単元計画を策定し、指導する。

②生成 A I の有効活用の検証及び成果普及
・A I 英語モデル校事業において、生成 A I を活用した年間指導計画及び単元指導計画のモデルを開発し、その成果を各種研修における実践報告等で還元する。
・A I 英語モデル校以外の学校は、モデル校の実践事例を参考に、自校における生成 A I を活用した英語による言語活動の充実に向けた工夫について、検討する。

広島県教育委員会

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	49.6	53	47.0	55	46.4	58	60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	19.7	23	19.6	25	18.7	27	30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		55	49.4	55	57.7	60		65	70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	58.0	100	60.2	100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	82.2	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		90	94.7	95	92.9	96	91.6	97	97	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		50	21.5	50	29.2	55	19.4	55	65	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	47.3	50	41.4	50	47.5	55	60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		87.5	71.3	87.5		90		92.5	95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	100	100		100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	49	50	46.8	50	59.4	60	60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		85	64.6	85		85		85	85	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	98.4	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	99.7	100		100		100	100	